

新大陸発見は日本人？

La Voz No. 79 (1980 年 11-12 月発行) イラスト提供 「太平洋古代文化」調査事業

はるばる黒潮に乗って太平洋横断を果たした野性号Ⅲは、アメリカ大陸の西海岸をさらに南下、エクアドルのグワイキル港にその姿をみせました。時は 1980 年 10 月 12 日、くしくもコロンブスが新大陸を発見した日でした。乗組員六名は全員元気で、グワイキル市のハナムセ市長に会ったり中央銀行博物館でひらかれた野性号Ⅲ入港記念展に出席しました。

エクアドル中央銀行博物館に展示されている土器と地図には、今から 5,000 年ほど前に日本の漁民が漂流してアメリカ大陸からさらにエクアドル沿岸に漂着したという説日月がつけられています。これは 1965 年にアメリカとエクアドルの考古学者が提出した学術報告「エクアドル海洋の形成期前期」の中で発表されたもので、それには次のように記されています。

「... 今から 5,000 年ほど前のこと。九州の南西海岸から漁に出かけた一組の小舟が嵐にあって... 黒潮にのり... さらにカリフォルニア海流に乗って赤道をこえ、ついにエクアドルの海岸に漂着した。この縄文時代の漂着者は、その地に住みついて古代エクアドルの人々に土器の制作技術を伝えた。こうしてアメリカ大陸全体でももっとも古いエクアドル最古の土器文化バルディビア文化が誕生した...」

今月の 5 月、下田港を出帆したタブルカヌー野性号Ⅲは、この「縄文人の太平洋航海」の仮説にのって、いよいよこの...



太平洋古代文化の会会長の角川春樹社長は、出発の際、「野性号Ⅲの航海も苦労とあつた汗を流さなければ、勝利とは肉体を燃焼させてはじめて獲得できる勲章だ。これも一つの戦いなのだ。」こう言って乗組員をばけました。まさしく今回の航海は、その勲章を受けるにふさわしい壮挙といえましょう。

私たちが歴史をさぐるのは、歴史に学ぶためです。単に歴史を学ぶことは何の意味もありません。「に学ぶ」ということは自分と無関係なものとしてではなく自分に関係あるものとして学ぶことです。自分がかく生きている。彼らがかく生きた。なぜなのか。そのような考えで過去に接する時、はじめて私たちは新しい見方ができるようになるのです。聖書は世界で一番古い書物です。その聖書が教えている真理も過去を現在にうつして自分の体験としてとりいれるときに新しい生き方がはじまるのです。あなたも求めて下さい。そうすれば与えられます。それは神の約束だからです。あなたの人生の航海が祝福されるために！



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
11月04日	クリスチーンのアメ리카新発見 (20)	11月05日	聖書遊覧バス 旧約聖書 27 篇
11月11日	天野博物館 (3)	11月12日	お便り交換の時間
11月18日	女ばかり南米大陸に行く (19)	11月19日	詩篇 28 篇
11月25日	マリンバの調べ	11月26日	詩篇 29 篇

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>) のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただきます。(mp3 形式)

放送時間：日本時間 午前 7 時半～8 時 15420kHz (再放送) 午後 8 時～8 時 30 分 11905kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)

